

## 留学・進学経験談

李潤森

この経験談を通して自分の留学・進学経験を後輩達と共有し、皆さんの参考になれば幸いです。この経験談は三つの部分に分かれます。第一部分では、私が留学の準備を開始してから京都大学情報学研究科に合格した全過程の概要を述べ、いくつか重要な時期を示します；第二部分では、私が直面した困難と解決方法を紹介します；そして第三部分は自分の感想をまとめたものです。これから述べることはあくまでも個人の経験に基づくものですので、必ずしも正解とは限りませんが、皆さんはご自身の状況に基づき、前をもって準備を始めると良いでしょう。

### 一. 留学経緯

私は大学時代の専攻は応用数学です。大学三年生の頃に留学したいという考えを持ち始め、実際準備を始めたのは四年生の後半、すなわち2019年の4月頃です。当時、卒業論文の執筆が最終仕上げの段階にあることもあり、私はTOEFLの試験勉強を開始し、7月に本試験に参加し、91点の成績を取りました。この点数はほとんどの日本の大学院の情報学修士の出願条件をクリアしています。そのため、同年の10月まで私は日本語の勉強をし、各大学院の入学試験の情報の収集を始めました。

2019年10月、私は亜細亜友之会外語学院に入学し、日本語能力試験の準備をしながら、新しい環境への適応に没頭していました。そして、今年の3月まで、私は主に志望大学院の指導教授との連絡をし、出願許可の取得をしていました。これと同時に、筆記試験の出題範囲の下調べ、使う教材の入手、そして勉強計画を練ることに専念しました。2020年3月下旬、専門知識の勉強を開始し、8月に京都に行き、本試験に臨みました。

私が出願した2校の出願時期はともに6月上旬で、これまで私が準備してきたことは以下の通りです。2校の募集要項を精読すること；ゼミのオンライン説明会に参加すること；3月に中国の出身大学から卒業証明書等の書類を取り寄せること；5月に志望理由書を完成させる、などのことをしました。そして、大澤先生のご協力を頂き、出願資料を大学に郵送で送りました。

### 二. 問題と解決

第一部分で言及したいくつかの段階で私は以下の困難に直面しました。まず、TOEFLは私にとって最初の難関です。個人差を考えれば、私の場合は具体的に何が難しかったかをここでは省くことにします。試験対策のみ述べます。1. 一般的に中国国内の大学英語検定6級に合格したことが前提で、TOEFL試験対策のみで3か月間猛勉強した場合、90点以上を取るのがそれほど困難ではないはずですが；2. シャドーイングは聴解とスピーキングの良い練習となります；3. 時間配分を常に意識し模擬試験に臨みましょう。TPO問題集を是非活用して下さい。

私が一番頭を悩まされていたのが研究計画書の執筆と指導教授との連絡でした。幸い、私が出願した2校はいずれも研究計画書が必須ではなかったのです。事前に指導教授と連絡を取得する必要があるのも1校でした。そのため、私からは適切なアドバイスをすることができないかもしれません。ただ言えるのは、いずれの過程においても常に先生方と相談することです。私の場合、大澤先生からたくさんアドバイスを頂きました。本当にありがとうございました。

最後に、理系大学院受験において筆記試験の成績が合否を左右する最も重要な要素という観点から、専門知識の勉強が最も重要だと言っても過言ではありません。この点において、私は以下のことをしました。前もってスケジュールを立て、過去問題集を中心に、重点を明確にし、優先順位を決め、もれなく勉強を進めていきました。この手順を踏めば、最終的に合格する可能性がかなり高いと私は思います。

### 三. まとめと感想

以下いくつかのアドバイスを皆さんと共有し、お役に立てれば幸いです。

成功のカギは事前に準備を重ねることにあります。一般的に、準備の時間が長ければ、準備の質が良く、合格できる確率も次第に高くなるでしょう。皆さんになるべく早い段階から情報収集をし、直面しそうな問題点を整理し、解決方法を探して頂きたいです。前もって準備するのが唯一の近道です。

日本語と英語といった語学能力、とりわけ会話力をつけることが大事です。教授との交流、面接、研究計画書の執筆と論文の精読など、様々な場面で語学力が重要な役割を果たしているからです。日常会話力は勿論、専門用語そして文章を書く力を習得することが非常に大事です。そのほか、TOEFL、TOEIC、能力試験と留学試験の成績も重要です。

各大学の公式HPの活用と募集要項の精読をおすすめします。日本で進学する場合、大学、専攻(研究科)、指導教授ごとに受験生を評価する基準が違います。これらの違いのほとんどが募集要項や公式HPに載っています。情報を正確に読み取り、正しい選択をすることが合格につながる必須条件の一つです。

経済状況と時間に余裕がある学生は、多数の大学の入学試験に挑戦し、成功率を上げていく方法もあります。東京大学のような難関大学に挑戦するのも良いでしょう。「目標を高く」と自分に言い聞かせてやれば、きっと満足できる結果を出す日が来るでしょう。

最後に、亜細亜友之会外語学院の先生方に感謝したいと思います。先生方のサポートと支えがなければ、私は順調に合格できなかったでしょう。感謝を表す言葉が見つからないくらいです。また、これから入学試験に挑戦する後輩たちにも理想の大学に合格できるよう祈ります。